

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成28年 6月 16日

和歌山県知事 仁坂 吉伸 殿



提出者 日立造船(株)新宮市作業所
 住所 和歌山県新宮市新宮8002-69
 氏名 現場代理人 鈴木 義明
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
 電話番号 0735-29-7290

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日立造船(株)新宮市作業所	
事業場の所在地	和歌山県新宮市新宮8002-69	
計画期間	平成26年6月10日～平成29年3月31日	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項		
① 事業の種類	6 総合工事業	
② 事業の規模	元請完成工事高 ¥2,775,600,000-(税込)	
② 従業員数	約60人	
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	建設工事→分別→木くず 混合(安定型) →収集運搬・処分委託 コンクリートがら →収集運搬・処分委託 ガラス・陶磁器くず →収集運搬・処分委託 アスコンがら →収集運搬・処分委託 廃石膏ボード →収集運搬・処分委託	

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図) 別紙の通り		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（平成27年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙の通り
	排 出 量	t t
	(これまでに実施した取組) 建物の撤去量や地下埋設分の撤去量を推計することにより産業廃棄物の書類毎の搬出量を予測した。	
② 計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙の通り
	排 出 量	t t
	(今後実施する予定の取組) これまでに実施した取り組みを継続する。	
産業廃棄物の分別に関する事項		
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現場内にて木くず、混合(安定型)、コンクリートがら、ガラス・陶磁器くず、アスコンがら、廃石膏ボードと適切に分別した。	
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) これまで実施した取り組みを継続し、従業員に対し産業廃棄物の分別を行うよう教育を徹底する。	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成27年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 自ら直接再生利用は行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら中間処理は行わない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成27年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 自ら中間処理は行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら中間処理は行わない。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 状	【前年度（平成27年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまで実施した取組) 自ら埋立処分、海洋投入処分は行っていない。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら埋立処分、海洋投入処分は行わない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 状	【前年度（平成27年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまで実施した取組) 処理業者と委託契約を締結するにあたり、事前に現地の確認を行い、処分場までのルートや交通状況の確認を行った。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>これまでの取り組みを継続して行い、再生利用が可能な廃棄物については、再生処理を行うよう推進する。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の処理に関する管理体制

(1)責任者及び管理組織図

統括責任者	所属:環境事業本部	職名:業務部長 宮崎 寛
現場責任者	日立造船(株)新宮市作業所	職名:現場代理人 鈴木 義明
現場担当者	日立造船(株)新宮市作業所	職名:現場担当 南雲 佑平
産業廃棄物処理責任者		
廃棄物処理施設技術監理者		
役割	統括責任者	①委託契約の締結 ②処理業者の現地確認 ③再利用の推進のための委託先の情報収集、ルート確保
	現場責任者	①産業廃棄物の取扱手順等の策定 ②従業員及び下請業者への教育、啓発等 ③廃棄物処理法及び関係法令遵守した作業の推進
	現場担当者	①帳簿の作成 ②マニフェストの管理

組織図



